（三）　第一萬二千五百四十五號　上毛新聞社　昭和八年六月二十九日　（第三種郵便物認可）

戰國時代の史跡
名胡桃城趾
記念物指定方を申請

利根郡湯檜曲村大字湯の名胡桃城趾を今回史跡名勝天然記念物として保存方を文部省に指定方を申請することになつたが同城の由来は慶長の戦国時代に遡ること三百年前に遡る遠い昔の物語である◇戦国時代に武田信玄の家臣真田昌幸が信州から上野に移封されて沼田城を築いて居つた頃真田氏の家臣に鈴木主水重則なる者があつて沼田城の東方二里の地点に城を構へ城主として居つたが天正十一年豊臣秀吉が徳川家康と戦つた小牧の役に際し秀吉は家康の背後を脅かすべく真田昌幸に対し上杉景勝と提携して徳川方に加担するよう勧誘したが昌幸は秀吉の誘惑に応じ上杉と提携して徳川方に加担するに決し沼田城の明け渡しを秀吉に申入れたが鈴木主水重則は主君の命に背いて城を明け渡すことを肯ぜず城を守つて秀吉の大軍と戦つて遂に城を陥され重則は城内で自殺したが城は秀吉の手に渡つたが秀吉は真田昌幸の子信幸に沼田城を与へ信幸は沼田城の東方二里の地点に新城を築いて移り沼田城は廃城となつたが鈴木主水重則の忠誠を賞して城趾を与へ鈴木主水重則の子孫に世々相続を許したが明治維新の際鈴木主水重則の子孫は城趾を挙げて沼田藩に献上したが藩は城趾を保存する為に城趾を挙げて東京帝国大学に献上したが大学